

## 【広島】在宅療養支援の悩みを相談できる「本音で語る井戸端会議」を開催-林經堯・在宅療養支援診療所りんりんクリニック院長に聞く◆Vol.2

2021年3月6日（土）配信 m3.com地域版

昨年、研修医の在宅医療同行研修を引き受けた林經堯氏は、今後の医療を担う若き医師に何を伝えたのか。また、3年間で15回を数える取り組みである「本音で語る井戸端会議」はどんな目的で行っているのか。24時間対応の在宅診療を行って10年目を迎える林氏に話を聞いた。（2020年1月16日インタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回はこちら



在宅療養支援診療所りんりんクリニック院長の林經堯氏

——昨年、研修医に対し、在宅医療同行研修を行っています。研修への思いや、若き研修医に期待することがあれば。

かつて広島赤十字・原爆病院にお世話になっていた私は、恩返しの気持ちで研修医の在宅医療同行研修を引き受けさせていただきました。昨年は6月、8月、10月と研修医が当院へやってきて現場での研修を行っています。「将来の糧になれば」との思いから、さまざまな経験をしてもらいました。

在宅医療に対し、私が一番心掛けていることは「安心して療養できる環境づくり」です。そのためには、まずは「患者さんとその家族とのコミュニケーション」が大切だと思うのです。患者さんやその家族が一番心配しているのは「もし在宅療養中に何かあったらどうしよう」ということです。そういう時こそ「先生に言えば何とかなるよ、大丈夫だよ」と安心して任せてもらえるよう、患者さんや家族との日常的な関わり方が重要だということを伝えました。

研修医の皆さんには「将来在宅医療に関わることがあれば、あるいは病院の仕事の中で『この患者さんは在宅医療につないだ方がいい』と思うときがあれば、在宅医療への正しい知識をもって患者さんに説明してあげてほしい」と伝えています。それは、ひいては病院側にも、患者さんにもメリットのあることだからです。

——開業医の在宅医療同行研修も引き受けていますね。これについて教えてください。

開業医の在宅医療同行研修は、在宅医療を推進するため、広島県医師会が、広島県と協力し全県において実施しているものです。県内で在宅医療を実施する医師を新たに育成すること、在宅医療に関心を持つ医師を増やすこと、在宅医療を行う医師同士で連携を深め、レベルアップを図ることを目的としています。

在宅訪問診療の保険診療体系は、一般の外来診療のそれとかなり違うところがあります。参考にするべき書籍は多数出版されていますが、読んでわかりにくいところがたくさんあります。限られた時間ですべてのことは説明できませんが、同行研修を通じて在宅医と開業医のネットワークが形成できれば、相談したいことがある時には何かと便利で役に立つことがあると思います。

患者宅での診療はクリニック内のそれと比べて、やはり勝手が悪いですね。そこで開業医に実際の診療状況を見てもらえば、訪問診療に踏み込みやすいと思います。患者宅への訪問時に携行するもの、同行看護師との役割分担、関連訪問看護ステーションや介護支援事業所との連携など、具体的にどのように行うか現場で直接伝えられるのもこ

の研修の大事なところですよ。今後も、お声が掛ければいつでも、開業医の在宅医療同行研修を引き受けたいと思っています。

——「本音で語る井戸端会議」「討論会」などを積極的に開催していますね。

医療に従事する者は、患者さんのプライバシーに配慮しなければなりません。特に在宅療養の場合、患者さんやご家族の「生活」が絡むことが多いため簡単に悩みや困り事を人に相談できません。しかし、一人では解決策がなかなか見いだせないのも事実です。そんな現状を数人の親しい関係者に相談し、スタートさせたのが「本音で語る井戸端会議」です。昨年11月まで、クリニックを会場に、3年間で全15回開催しました。内容は医科や歯科のミニレクチャーのほか雑談会のようなもので、時には悩みの共有の場にもなります。介護福祉士、訪問看護師、歯科医、薬剤師、地域包括支援センターの方や役場関連部署の職員など、毎回15～25人がこのクリニックに集い有意義な意見交換、交流を行っています。

今までに「歯科と全身疾患」「認知症」「症例検討」といったテーマに沿ったレクチャーやミニ講座なども行っています。訪問診療を行っている歯科医師の口腔ケアの話など、現場の生の声を聞くことは、非常に貴重な時間となりました。症例検討や悩み相談は忌憚のない本音の発言を期待し、あえて記録などは残さず、誰でも参加しやすいようにしています。これはほかのクリニックにはない取り組みだと思っています。



24時間対応するため2階の当直室に泊まることが多い



春を待つ果樹たち（本人提供）

——クリニックの内外には果樹が植えられ、壁にはたくさんの患者さんの写真が貼ってありますね。

果樹は、クリニックを開業する前から自宅で育てていました。現在、クリニックの庭で20種の林檎のほか、梅、ビワ、金柑、アーモンド、オリーブなどを栽培しています。果樹には、花が咲き、実をつけ、収穫するという楽しみがあります。毎年4月にクリニックで開催する「林檎の花見の会」で患者さんと家族の方に来ていただいて、春の喜びを感じてもらっています。秋には採れたての果実を味わってもらうこともあります。

療養中はどうしても外出を恐れるようになりがちです。「林檎の花見の会」を通して外に出ることで、少しでも社会との触れ合いができるようにしていきたいと思っています。

療養生活を送っていても社会とは断絶せず、地域の中で生きている患者さんとその家族をサポートすることは、私の在宅医療の原点であり、これからも初心を忘れず頑張っていくつもりです。

◆林 經堯（りん・けいぎょう）氏

1984年（台湾）中国醫藥學院藥學部卒業、1997年広島大学医学部卒業、1999年広島大学医学部附属病院救急部・集中治療部入局、2004年広島赤十字・原爆病院麻酔科部・集中治療室医師などを経て、2010年在宅療養支援診療所りんりんクリニックを開設。

【取材・文・撮影＝門田聖子（ぶるぼん企画室）】